2015年
5月号
カトリック笹丘教会
教会ニュース
福岡市中央区笹丘1-16-1
☎761-4504 F761-4524
広報委員会

福岡教区今年度の目標…「信仰の伝達」
小教区今年度のテーマ…「学び、伝えよう、家庭から私たちの信仰を」

聖霊の伴侶である聖母マリア

主任司祭　遠山満

先日、地下鉄に乗った時、車内の様子が一昔前と少し変わったことに、遅ればせながら気づきました。何が変わっていたかと申しますと、少し前は、乗っている人たちのほとんどが、携帯メールをしておられ、一生懸命にキーを打っておられたような気がします。最近は、スマートフォンに変わり、皆がスマートフォンを眺めて、各自ページめくりをしておられました。携帯からスマートフォンに変わりはしましたが、一人一人、目の前にある小さな機械をいじっているという点では、基本的に一昔前と変わらない光景でした。

教会では、幸いなことに、沢山の子供たちが一か所に集まって、各自、テレビゲームに興じる、そんな光景は減ってきているような気がします。子供たちが、テレビゲームを傍らに置いて、一緒に遊んでいる姿を見ておりますと、将来の教会が一つになっていく、その予兆を見ているようで、なんだか嬉しくなってきます。他方、教会が一つになっていくための障害も多々あります。一つは、教会の連絡網つくりの問題です。現代は、個人情報をどのように取り扱うかが大きな問題となっております。それは、個人情報を悪用する人たちがいるからです。個人情報を簡単に開示すれば、それが即、犯罪に繋がる、そんな時代になってきました。

このような現象は、私たちのお互いの絆をもろいものにしたり、断ち切ったりする現象に繋がっているのではないでしょうか。そのため、人が孤立するようになってきていると思います。人が孤立すれば、悪霊に狙われやすくなります。それは、動物が群れから離れると狙われやすくなるのと同じです。ペトロは次のように言っています。「身を慎んで目を覚ましていなさい。あなた方の敵である悪魔が、吠えたける獅子のように、誰かを食い尽くそうと探し回っています。信仰にしっかり踏みとどまって、悪魔に抵抗しなさい」（Ⅰペトロ５章８～９節）。

さて、今月は聖母月です。聖母マリアは、聖霊の伴侶と言われます。聖霊は、父なる神と子なる神を結ぶ愛の絆です。家族の絆、人と人との絆が薄くなり、脆くなり、断ち切られている現代社会において、神の愛の絆そのものであられる聖霊が私たちのもとに来てくださるよう、聖母の取り次ぎを願いましょう。この月に、ロザリオを唱えながら、聖霊が来てくださり、私たちの間での絆、また、私たちと主なる神様との絆が強まるよう祈りましょう。

信者会総会議事録

平成２７年４月１９日（日）10時のミサ終了後
場所　カトリック笹丘教会聖堂

１．初めの祈り
２．開会挨拶　主任司祭　遠山神父様より
３．会長挨拶　川原さんより
４．議長選出　信者会副会長　畠山さんを推薦され、承認
５．議題
　１）平成２６年度活動報告　川原会長より資料に基づいて報告
　２）平成２６年度会計報告　会計担当　前田史美さんより
　３）平成２７年度役員退任　後任選出　川原会長より
　　退任　女性の会 佐藤あやみ　副会長 水口カヨ子　書記 古川由鶴
　　後任　女性の会 川原圭子　書記 牧山幸二
　　平成２７年度役員
　　会長　川原義広　副会長　松尾進・前田美由紀　書記　牧山幸二　会計　前田史美
　　信徒協担当　畠山真理男　　地区女性の会担当　川原圭子
　４）平成２７年度活動計画　松尾さんより説明提案　　提案通り採択される
　５）平成２７年度予算審議　川原会長より説明提案　提案通り採択される
　６）その他・福岡地区信徒使徒職協議会　畠山さんより平成２６年度活動報告
　　・福岡地区カトリック女性の会　佐藤さんより平成２６年度活動報告
　　・教会運営可視化及びメンバー募集について
　　川原会長より趣旨説明あり、 具体的実施要領は後日提案する。
　　・信者会連絡網について
　　現行の電話連絡ではでつながらない場合が多く、ファクス、メールの利用を検討する。後日、希望の連絡方法を申告してもらうこととする。
　　・拡大信者会のあり方について
　　現行の月１回開催の必要性及び内容について見直すこととする。
　　後日役員会で検討のうえ後日提案する。
　　・レジオから
　　訃報の連絡を受けたら共同体家族として出来るだけ祈りに参加して欲しい。
　　・予算が窮屈になっている、検討が必要ではないかとの意見あり、財務委員会で検討することとする。
　７）　新旧役員挨拶
６．閉会挨拶　信者会副会長　畠山さんより
７．終わりの祈り

バザー

好天に恵まれた5月10日(日)毎年恒例のバザーが盛況のうちに開かれた。

ホール食堂は満員のお客様

教会学校

フィリピンの仲間たち

屋外用テーブルも新調

パワーアップのゲームコーナー

笹丘ファミリア合唱団！！

焼そば一番早く完売

編集後記

先日30年来の友人を天国へ見送った。私と同じ63才であった。若い頃青年活動の中で聖劇をやった仲間だった。彼は35年前イエス・キリストの受難・復活劇では大祭司カヤファの役を見事に演じた。13年前に最愛の妻を亡くしたが、五人の子供を育てた。亡くなった奥様は文字通りマリア様のような方で別の劇ではそのマリア様の役を演じ、小さかった子供は赤ん坊のイエス様の役だった。彼女は次の言葉を遺して逝った。『遺すものは何もありません。この49年の生き様のみです。幸せな人生でした。私らしく生まれ、私らしく生きられた49年でした。』

そして彼が亡くなる前日に入院先の病院にお見舞いし同行したシスターと病室でロザリオを唱えた。しかし、子供たちは昔の天使祝詞の祈りしか知らなかった。母親を亡くしてからは教会とは多分疎遠だったのだろう。友人として「彼女の生き様」を残った者が伝えられなかったことを後悔した。祈りひとつをとっても伝えることの難しさを思った。ましてやこの時代「信仰を伝える」ことは至難の業なのだろうか。「伝えること」の前に、まず伝える側の自分の信仰のルーツをしっかりと知り、求めてそして与えられた信仰を確認することから始めたい。

（Y・K）